

讃岐国分寺太鼓

「和・心・響・感」

“高松市国分寺町から発信する音”をテーマに活動している讃岐国分寺太鼓保存会。体に響く迫力の演奏はもちろん、楽器紹介コーナーなどもあります。



●とき

2016年9月22日(木)

午後1時30分開演(午後1時開場)

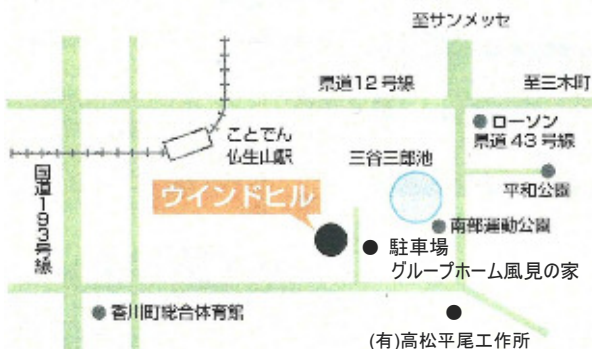
●ところ

障害者支援施設ウインドヒル
地域交流棟 (高松市三谷町 3851)

TEL : 087-888-4277

080-2986-7222 ※土日祝・夜間はこちら

※駐車場は、グループホーム風見の家にあります。(30台程度)



太鼓の響きを体感！

和太鼓は、長胴太鼓(宮太鼓)、桶胴太鼓、附締太鼓と大きく3種類に分けられます。ばちで叩くものを太鼓、手で叩くものを鼓(つづみ)と呼びます。日本における太鼓の歴史はとても古く、なんと縄文時代にはすでに情報伝達の手段として利用されていたと言われていいます。一説には、人間の心臓の鼓動に太鼓の鼓動が同調することによって、自らを鼓舞する性質があるそうです。迫力の演奏はもちろん、楽器紹介やどなたでも参加できる太鼓の体験コーナーも予定しています。

特定非営利活動法人 讃岐国分寺太鼓保存会

讃岐国分寺太鼓保存会の活動テーマは“高松市国分寺町から発信する音”。1987年町おこしの起爆剤にと同好会として発足。瀬戸大橋博覧会での初公演を皮切りに、町内外で演奏活動を活発に行う。郷土の伝統芸能としての確立を目的に、国分寺町の全面的な協力のもと、1990年に保存会を設立。1991年には後継者育成のため子ども太鼓を結成。これまでに、坂田明氏(ジャズサクソフォニスト)、山下洋輔氏(ジャズピアニスト)らとセッションを行い、ジャンルを超えた音楽活動が高く評価され、その存在を県内外に強く印象づけてきた。また、マルチパーカッショニスト細谷一郎氏に作曲を依頼した「石響(しゃつきょう)」は、サヌカイト、篠笛、和太鼓で構成され、保存会の代表曲となっている。現在では50名を越すメンバーで活動を行い、「東京国際和太鼓コンテスト」では、2004年の初エントリー以来毎年入賞を果たし、最優秀賞、優秀賞、敢闘賞の全賞を制覇している。

入場無料！直接会場へお越しください。

*0歳のお子様から入場できます。 *開場は開演時間の30分前です。 *公演時間は約1時間の予定です。



■お問い合わせ

サポートホール高松
(公財)高松市文化芸術財団 事業グループ
〒760-0019 香川県高松市サポート2-1
TEL087-825-5010 (平日9:00~18:00)

主催/高松市
企画・実施/(公財)高松市文化芸術財団
協力団体/社会福祉法人ポム・ド・パン
障害者支援施設ウインドヒル